

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

December 2018 vol.56

December						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

◆ 白山神社

所在地：西尾市徳次町宮廻

交通：名鉄西尾線「西尾口」駅 東 約 1.1km

西尾市の矢作古川に沿った地域には、昭和 20（1945）年の三河地震の慰霊碑が、数多く建てられています。西尾市役所から 1.5km ほど東にある白山神社には、三河地震における徳次町での犠牲者を慰霊した震災碑があります。

この震災碑は、徳次町の住民が発起人となって昭和 27 年に建立されたもので、地震により徳次町では 26 名の死者、50 名余りの負傷者が発生し、家屋の倒壊は 67 戸、倒壊を免れた家屋もほとんどが半壊に至ったことが記されているほか、亡くなられた方 26 名の名前が刻まれており、犠牲者を慰霊するとともに、この災害を後世に伝えることが建立の目的であることが述べられています。

この徳次町で三河地震を体験した方の体験談が「愛知県史民俗調査報告書 2（平成 11 年、愛知総務部県史編さん室）」の西尾・佐久島編に掲載されています。以下に引用します。

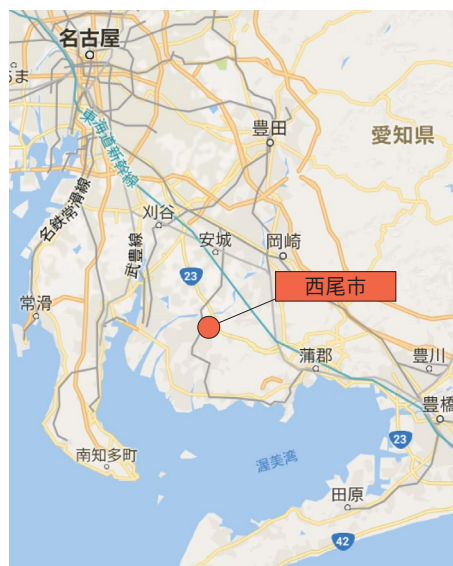
「徳次町の N さん（昭和 4 年生まれ）は両親と姉 2 人と弟 1 人妹 1 人の 7 人で寝ていた。父の「地震だ」と叫ぶ声で目が覚めた。立てなくて這って入口の引き戸の所まで来たが、戸が波打ち開かなかった。余震のたびに天空に閃光が走った。見渡すと東南海地震では何ともなかった母屋も他の建物もなかった。屋敷の竹藪のみが残っていた。外に出たのは父と 2 人だけであった。倒壊した建物の中から「おい、おい」と助けを呼ぶ声がしている。家の下には 5 人の家族がいる。父はすぐさま近所の助けを求めたが、何処も同じような状態だったので誰も来てくれない。その

間、必死で屋根の瓦を取り除いた。屋根を破ると、姉が布団を被っているのが見えた。布団をちぎり姉を抱え上げた。怪我はしたが無事であった。すぐ脇に倒れた柱があったが、下敷きにならなかったのである。一人一人引き出し、最後に母を引き出した。朝の 7 時頃になっていた。全員無事であった。」

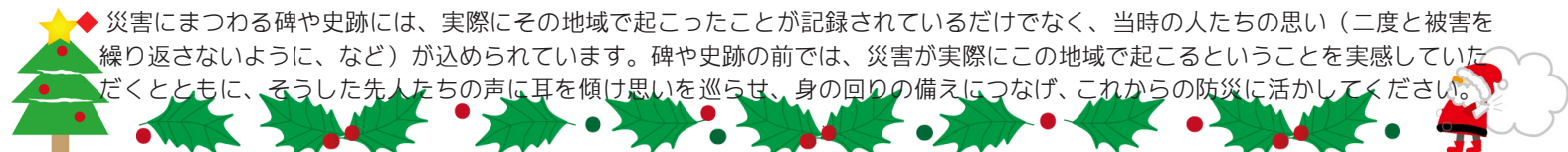
「少し余裕が出てきたので、隣の家に行ってみると、倒壊した家の柱と柱の間からうめき声がしている。余震のたびに柱が下がっていく。もうどうすることもできなかった。後で思えば中に材木でも差し込めば助かったのだがと悔やまれたが、その時は廻りに適当なものが見当たらなかった。10 時頃になって救助隊が駆けつけてくれたが、人手不足でついに助からなかった。」

N さん一家は幸い全員が助かりましたが、建物が倒壊したあと、近所に助けを求めても、誰も助けに来てくれない状況であったことがわかります。また、隣の家の描写はもっと壮絶なもので、即死を免れた住人が、余震により徐々に建物の柱が下がってきて、ついに建物に潰され命を失う凄惨な状況が述べられています。

このように、地震のあとは建物に挟まれていても、大けがをしても、しばらくは助けが来ない状況になる可能性があります。また、『隣の家』のような恐ろしい状況になることも考えられます。こうした体験談を教訓に、耐震化や家具固定など、あらためて身の回りの地震対策について考えてみましょう。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆白山神社の周辺には…

● 米津町蓮台墓地

所在地：西尾市米津町蓮台

交通：名鉄西尾線「米津」駅 西 約 400m

昭和 20（1945）年三河地震の慰霊碑が遺族によって建てられています。碑の裏には地震発生当時の状況等が記されており、震動が急激で、しかも深夜であったことから外に逃げられず、家屋の下敷きとなった者が多数出たことが記されています。



昭和 20（1945）年三河地震による断層痕跡が残る神社です。痕跡は神社拝殿を左右に横切る形で、拝殿床下の旧コンクリート製側溝に確認されています。（拝殿床下のため、断層痕跡は通常非公開です。）



● 小島龍宮社

所在地：西尾市小島町山内

交通：名鉄西尾線「米津」駅 西 約 400m

昭和 20（1945）年三河地震による断層痕跡が残る神社です。痕跡は神社拝殿を左右に横切る形で、拝殿床下の旧コンクリート製側溝に確認されています。（拝殿床下のため、断層痕跡は通常非公開です。）



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 吉良公毎歳忌

元禄 2（1702）年 12 月 14 日、赤穂浪士の討ち入りにより、吉良上野介義央公は命を落としました。命日となった 12 月 14 日には、吉良町岡山にある吉良家の菩提寺・華蔵寺で「吉良公毎歳忌」の法要が行われ、毎年たくさんの参拝客が訪れます。

当日は本堂横にある御影堂が開帳され、普段は非公開となっている県指定重要文化財の義央公の木像が公開されます。この像は義央 50 歳の姿といわれ、自ら彩色を施したとも伝えられています。また、義央像と並んで、義央の曾祖父・義定公、義定の父・義安公の木像も見ることができます。

なお、華蔵寺は慶長 5（1600）年、義定が旗本として吉良家を再興した際に義安の菩提を弔うために創建したもので、境内の吉良家墓所には義安以下、代々の墓が建ち並んでおり、吉良家ゆかりの文化財も数多く所蔵しています。



西尾市観光協会 HP より

12月のあいちの花

平成 30 年 12 月のあいちの花はハボタンです。ハボタンは、夏に種を蒔き、冬から春にかけて色づいた葉を觀賞する植物で、冬の花壇や正月飾りによく利用されます。



みんなの趣味の園芸 HP より

外側の大きな葉は緑色に、中央の葉は白、赤、ピンク、紫などに色づきます。漢字の葉牡丹は、鮮やかな葉姿を牡丹の花に見立てたものです。

日本には江戸時代に食用として渡来し、以降、觀賞用として品種改良が重ねられてきました。かつては大株を花壇に植えるのが主流でしたが、最近では矮性剤の利用や品種改良により小型化したものが鉢植えなどとして出回っています。摘芯により枝分かれさせ、枝の先端に花が咲いたように葉を付ける「踊りハボタン」という楽しみ方もあります。

●ブレイクタイム●

♪ 吉良の赤馬

吉良上野介義央は赤毛の愛馬にまたがって領内の巡視にあたっていました。義央の威風堂々とした姿に領民たちは感動し、いつしかまたがっていた赤毛の馬を「赤馬」と呼んで称えるようになったと言い伝えられています。

吉良の赤馬は、この赤馬をモデルにした郷土玩具で、おがくずと糊を煮て固めたものを型抜きして制作される、5cm ほどの手のひらに乗る人形です。天保年間（1830～1844）から作られ始め、現在は 8 代目が受け継いでいます。



西尾市観光協会 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 30 年 12 月）

